

県大会終わる。地域職場で活発な活動開始！

5月24日の県大会後、各地域職場で平和委員会総会・大会が開かれています。これまで開催されたものを掲載しました。これから開かれる平和委員会の報告をお願いします。

「戦争と平和を考える特別旬間」の取組みについて総会で議論

石岡平和の会 山口由夫

08年度総会を、6月16日に開きました。当日は、別団体の行事もあり出席は12名にとどまりました。憲法9条を守ろうの運動が全国的に広がる中で、国民世論も憲法9条改悪に反対する力が前進しています。しかしながら、改憲勢力は民主党の幹事長や前代表を役員に据えて、国民的な運動を起こすことを決めて巻き返しを始めています。また、米軍再編の中で、国内の米軍基地の強化と自衛隊の一体化が強引に進められています。このような背景を基調に活動方針が提起されました。

特徴として、一、憲法を守り広める活動として、学習の強化を打ち出されました。①憲法について改めて学習をする。シンポジウムなども開くようにする。②自衛隊のイラク派兵・海上自衛隊の空輸活動は憲法9条1項に違反するとして名古屋高裁判決の学習。③憲法改悪を許さない署名活動。二、平和の大切さを訴える活動として、①県平和委が提起した「戦争と平和を考える特別旬間」活動では8月9日から17日まで市立府中地区公民館で写真展示を行う。②戦争体験を聞く平和の集い。③市に対して早急な「非核平和都市宣言」をするよう要求、併せて平和行政の取り組みを求める。三、会員増やしと親睦活動として①会員を60名にする。②親睦を兼ねて戦跡見学会の実施。などです。

意見交換の中では、①戦争体験は貴重であり年齢も高くなってきているので記録をしておく必要がある。②米軍への思いやり予算などとてもないなどの意見がありました。役員選出も順調に行われ、代表理事には引き続き植田さんが就任しました。

総会終了後、「海外派兵恒久法」について、県平和委の伊達事務局長にお話をしてもらいました。その後は有志一同

で第2部の総会を行い、08年度の活動をスタートしました。

ビデオ鑑賞で楽しい総会

事務局長 小室道夫

去る6月15日、9回目の総会が、つつじ荘で17名の参加者によって開かれた。

＜昨年主な活動として＞

1. 美和・緒川九条の会の発足。
2. 毎月1回の「平和だより」の発行。
3. 「ありがとう憲法九条、これからも戦争しない国に」の意見広告を2回にわたって新聞折込した。
4. 「海外派兵恒久法」のパンフ会員全員が購読。
5. 母親大会の協力支援、等。

＜本年度の主な活動の具体化＞

1. 県内外の集会や学習会に積極的な参加を。
2. 戦争体験の話を聞く会、と記録。
3. 九条の会と協力して憲法を守り生かす。
4. 平和に関するチラシ、ニュースの発行。
5. 会員を増やし、心の輪を広げる。

総会后、「涙にまみれた靴、未来へつなぐ証を」、「蟹工船」のビデオを見て有意義であった。

ほぼ全員の発言で活発な討論の総会

水戸西平和の会 松原 日出夫

水戸西平和の会は、6月14日、総会を開催した。会員17名が参加しました。

第1部は「派兵恒久法」の学習会。講師として県平和委員会の伊達事務局長が参加し、講演しました。

私は、「派兵恒久法」の大もとは、日米安保体制にあることを分かりやすく説明し、憲法9条を無視する「派兵恒久法」を許さない活動の重要性を強調しました。

第2部は総会の議事。

07年度の活動報告と08年度の活動方針の提案、採決。11名の世話人と会計監査を選出し、小川弘二代表世話人、松原日出夫事務局長を世話人会で互選しました。討論（1,2部の）では、名古屋高裁判決の意義と、これが海外派兵に反対するたたかいの論拠となること、「戦争展」をとりくむ活動が大事になっていることなど、ほぼ全員が発言して活発な討論をしました。

より充実したパネル展をと、中心に討論

内原・友部平和の会 飯村 一雄

内原・友部平和の会は、2008年度大会を6月7日（土）午後、笠間市、友部町立図書館で開催しました。

海外派兵恒久法（国際平和協力法案）が自公民政権によって発表された状況の中で、具体的な運動の第一に、憲法改定反対（9条守れ）の運動に粘り強く取り組む事を決めました。

次に、内原・友部平和の会でも仲間作りがすすんでいなかったもので、いろいろな行事をくみながら会員拡大に取り組むことをきめました。

昨年8月に友部で「平和パネル展」を開催しましたので、今年度もより充実したパネル展を友部と内原で開催することを決めました。

尚、今までの活動は事務局中心の活動となっていたので、全員が参加する活動にしていこうということを確認しました。

内原・友部平和の会の今年度役員は、会長・飯村一雄、事務局長・川井光に決まりました。

平和かわら版

No. 505
月3回 発行
2008.6.25

平和新聞茨城版

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp



総会后昼食をとりながら戦争体験を聞く

ふじしろ平和の会

6月15日10時から13時まで取手市の新川集落センターで13人の参加で総会を開きました。昨年のもともと今年の活動、新しい役員体制について話し合いました。「仲間作りに取り組みよう」、「10月にはバスで見学会に行きましょう」などの意見が出されました。総会后、昼食をとりながら新婦人の戸頭在住の土井さん（83才）の戦争体験を聞きました。福岡で空襲にあい、家族全員が無事生きのびたことを話されました。（取材 加藤）

八千百振りの「靖国刀」

那珂市平和の会 川又 俊水

6月21日から水戸テアトル西友で上映されています。映画「靖国」は、日本・中国・韓国の3カ国の協力により、真のアジア友好をめざす合作映画として製作されました。

「靖国」をテーマに10年にわたって取材を続けたのは、日本在住19年のリ・イン中国人監督。偏狭なイデオロギーにとらわれることのない、まったく新しい視点での「靖国」の記録。

靖国神社のご神体は刀であり、昭和8年から敗戦までの12年間、靖国神社の境内において八千百振りの日本刀が作られていたのだ。「靖国刀」の鍛造を黙々と再現してみせる現役最後の刀匠。その映像を象徴的に構成しながら、映画は「靖国刀」がもたらした意味を次第に明らかにしていく。

海外でも、ベルリン国際映画祭をはじめ大きな反響を呼んでいる。日本人がこれまで見過ごしてきた歴史に、一人の中国人監督が柔らかい感性のまなざしを向けた映画「靖国」は、今こそ「靖国神社」と冷静に向き合わなければならないことを強く訴えかける。アジアの平和と真の友好のためには何が必要なのか、この映画からは、アジアの未来が見えてくる。

核戦争阻止・核兵器禁止・被爆者援護の声を

県内声高く響かせよう！

2008年原水爆禁止国民平和大行進宣伝カーの準備できました。6月25日、平和会館で綿引さん、荻谷君、岩清水事務局長が宣伝カーの看板付け作業。27日から県内コースを巡りますのでよろしくお願いします。



県原水爆禁止平和行進
実行委員会

より市民の中へ「かわら版」の充実を

「かわら版」編集委員会

6月24日「かわら版」編集委員会が開かれました。始めにこれまでの主な記事と構成について報告しました。

県内の平和に関する動きを知る上で必読の機関紙になっている。月3回の発行で、内容も非常に充実したものになっている。しかし、果たして何人の方が呼んでいるか心配であるが会員相互の意見交流の場として重要な役割を果たしていると思う。しかし、これからは県内の平和運動をリードして行く為には、会員以外の人たちにも読まれる、呼んでもらうためにはとの課題を意識ながら各編集委員から感想と改善点についてを出し合いました。

当面、日程と編集テーマについて以下のようにする。

- 7月 原水爆禁止運動、日平大会感想報告
 - 8月 戦争と平和を考える特別旬間
 - 9月 県内宣伝行動、自衛隊派兵恒久法反対、軍事費
- 編集委員が担当する記事に責任を持ち直接の取材などを
するなど、行動的な編集を確認しました。

次回は7,8月の記事の感想、今後の編集方針を話し合う
8月23日11時から。 (加)

新しい事務所体制

今年6月から荻谷哲生君（29歳）が事務局にパートの形で勤務して頂く事になりました。流石に若者は仕事が早く・落ちがない。如何に自分が歳になったか。荻谷君は週3日間仕事に就きます。曜日についておては仕事の都合で変更ありますが、私たち3人の誰かが午前9時半から午後5時まで事務局にいるようにします。若者を励まし・温かく見守って下さい。

(事務局長)

お世話になります

荻谷 哲生

はじめまして、6月より事務局をお手伝いさせて頂いています、荻谷です。

私は、去る3月1日・2日、静岡県焼津で開かれた「3・1ピキニデー集会」に参加することが出来ました。そこで改めて、ピキニ事件の真実と、それが国内外に広がった波紋について知る事が出来ました。また、その参加費用の募金にお願いに上がったときに、伊達事務局長が下さった、第5福竜丸の元乗組員の方が書かれた本を読んで、たいへん勉強させても頂きました。学校の教科書では教えてもらえなかった、隠されていた様々な真実を知る事が出来ました。日本の平和運動の原点に触れ、これからはより多く学んでいかねばと感じています。

これから事務局員として励んで参りたいと思いますので、何かと皆様にはお世話になる事とは思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。

事務局便り

第一回の「かわら版」編集委員が開かれました。初めて平和会館に来た大滝さん。これまで読ましていただきましたが非常に充実した内容で素晴らしいと、感想を。さらに、市民に広く読まれる機関紙にしたいと。本当に心強い助っ人。編集委員会頑張ります。これからもよろしくお願ひします。

(加)